

## ◆エル・システマジャパンが創るもの

喜び (Joy)

ケア (Care)

尊厳 (Dignity)

芸術性 (Artistry)

責任 (Responsibility)

---

### 1、喜び (Joy)

- 私たちは、あらゆることに喜びと情熱を持って取り組みます
- 私たちは小さなことであれ、子どもたちの成長や喜びを共に分かち合います
- 私たちはどんなときも子どもたちが笑顔になる時間を提供します

### 2、ケア (Care)

- 私たちは、大小を問わず子どもたちのどんな困難にも寄り添い、愛情をかけ、支えています
- 私たちは子どもたちにとって最大の理解者であり支援者となるよう努めます
- 私たちは無条件に子どもたちを信頼し、子どもたちが安心できる場所を提供します

### 3、尊厳 (Dignity)

- 私たちは子どもたち一人ひとりのありのままをとらえ、敬意をもって接します
- 私たちは、子どもたちの技術や境遇に関わりなく、一人の人間として尊重します
- 私たちはどのような状況でも子どもたちを最優先にして行動します

## 4、芸術性 (Artistry)

- 私たち自身が音楽を心から愛し、楽しみます
- 私たちは表現する喜び、楽しさを自ら創造し、伝えることに努めます
- 私たちは音楽家として、音楽性、技術を生涯高めます
- 私たちは音楽で子どもたちを励まし、導きます

## 5、責任 (Responsibility)

- 私たちは、子どもたちが目指したいと思う背中を責任を持って見せ続けていきます
  - 私たちは、常に子どもたちのためとなる指導を心がけ、実践していきます
  - 私たちは、活動に参加する子どもたち一人ひとりの権利が守られるよう、最善を尽くします
-

## ◆エル・システマジャパンの定義する「教育者」とは

### 子どもたち一人ひとりを尊重し、愛情を注ぐ(Individualization)

- 私たちは、子どもたちの能力や境遇に関わりなく、一人ひとりのありのままを尊重し、愛情を注いでいきます
- 私たちは、子どもたちがどんな自分でも愛され、(大人からも仲間からも)受け入れられていると感じられること、それを自分自身が仲間に返していくことができるようにサポートします
- 私たちは、子どもたちが安心して、楽しんで練習に参加できる環境を整えることに努めます
- 子どもたちが、純粹に音楽を愛し楽しむことができるよう、どの子にも関心を向け、信頼を築いていきます
- 演奏のレベルにかかわらず、目の前の子どもの力を引き出すための努力をします
- 子どもたちが、演奏や本番の経験を通して夢や希望を持ち、自分自身が肯定的になれるようにサポートします

### 伴走者であり続ける(accompaniment)

- 私たちは常に子どもたちに「寄り添い」「励まし」「見守る」一番の伴走者です
- 私たちは、子どもたちの成功や喜びを共に分かち合うパートナーです
- 「この先生の言うことなら聞いてみよう、応えてみせよう」と思わせる関係性づくりに努めます
- 子どもたちの興味(音楽)のきっかけ、成長の手助けになるような活動を行います
- 子どもたち一人ひとりを受け入れ、個性や特性を見極めます
- 子どもたちの日々異なる感情ややる気の波に柔軟に対応します
- 子どもたちの興味、挑戦、努力が見えたら全力で支えます
- 否定されないという安心感、信頼関係を作ります

### 学びつづける(keep learning)

- エル・システマジャパンに居場所を求める、学習障害の子、不登校の子、学校や家庭に居場所のない子が、さまざまな困難に向き合うため、私たち自身が彼らの課題・困難への理解を深めるための努力を惜しみません
- 子どもたちが目指したいと思える存在であるよう、指導法や演奏、表現についてなど、さまざまな事柄を学び続けます

## 自分自身がアーティストである (be an artist)

- アーティストであるという誇りを持って子どもたちに接します
- 私たち自身が、音楽の可能性を心から信じ、大切にします
- 表現する喜びや楽しさを自ら創造し、それらを伝える姿勢をもって、子どもたちに接します
- 時には言葉で励ますだけでなく、音楽家として音楽で励まします
- 子どもたちに演奏を聴かせ、「先生のように弾けるように、歌えるようになりたい」と思えるようサポートします

## 一人ひとりが教育者である (be an educator)

- 個人、集団のどちらにも常に一步先の課題を与え、チャレンジングな状態を保ちます
- 特定の個人についての話を、子どもたちに聞こえる場で行いません
- 一人ひとりにとって、またそのときの状況において、適切な言葉、適切な奏法、適切な教材を選択します
- 子どもたちを傷つけたりからかったりせず、心地よく練習に参加できる環境を整えます
- 子どもたちを知ろうとする努力を怠らず、常に励まし続けます